

令和6年度第3回 宗像市市民文化・芸術活動審議会議事録

日 時	令和6年9月5日(木) 10:00~12:00		
会 場	宗像市役所 北館 202会議室		
出席者	委 員	■原 ■大澤 ■吉田 ■秦 ■牟田 ■境 ■福岡 (敬称略)	
	事務局	■大塚 ■萩野 ■高尾 ■井上	

(1) 「第3次総合計画」の策定について

井上:5月に審議した内容の振り返りから行うため、総合計画の紙をご覧ください。5月の審議会から2点変更したので説明させていただく。1点目、目標(KPI)について18歳未満の目標も入れてはどうかというご意見があったが、宗像市の市民アンケートは18歳以上を調査の対象としているため、総合計画のKPIには18歳以上49歳以下の子育て世代に限定して記載させていただきたい。2点目は、主な取り組みの(5)に宗像は、むなかた子ども大学で体験活動が多分にあるため、「小学校の体験的な学習活動」について記載したほうが良い。また、学校と文化協会の連携が必要であるという意見をいただき記載のとおり修正したがいかがか。

全員:修正案のとおりで良い。

(2) 「文化芸術の推進によるまちづくりアクションプラン(仮称)」の策定について

井上:5月に審議した内容をもとに事務局で修正を加えた箇所から説明させていただく。4と13番の統合案については2点ご意見をいただいた。1点目は、関係する組織に文化協会を入れたほうが良い。2点目は、黒字の事業概要に書いている「事業構築を行う」というのは、事業概要ではなく、事業名に謳うことではないか。事業構築をしたうえで、文化芸術を鑑賞・体験する機会を創出するということを事業概要にまとめてはどうかというご意見をいただき記載の青字のとおり修正したがいかがか。

秦:項目1番は鑑賞「事業」としているが、4と13番の統合案は「事業構築」とするのか。構築をつけるとシステムを作り上げるイメージなので、事業を行うのであれば、「事業」でとどめた方が良いと思う。

高尾:事業名から「構築」を外し、事業概要で「事業構築を行う」とした方が分かりやすくて良い。

大澤:記載した内容を令和7年から令和11年の長期間で行うと考え、事業を構築するだけでなく、事業を実施していくということであれば事業名は「事業」で良いと思う。

井上:では、4と13番の統合案は事業名を「事業」に修正させていただく。次に、5と6番の統合案については1点修正した。目標値または成果指標の黒字③は、宗像ユリックスのバリアフリー化の推進としていたが、バリアフリー化というのは建物のことをさしている、建物だけでなく、情報面のアクセスのしやすさなど、アクセシビリティを高めていくことが必要だというご意見をいただき、記載のとおり修正したがいかがか。

大澤:修正案の文章だと、宗像ユリックスのバリアフリー化や宗像ユリックスの情報発信の工夫とい

う表現になっており、情報発信の工夫は宗像ユリックスに限る必要はない。③と分けて④で「宗像ユリックス、市内の文化芸術の情報発信の工夫を行い、アクセシビリティを構築」という目標値はいかがか。

秦：アクセシビリティの「構築」でいいのか。利用しやすさを表現するならば「向上」ではないか。

井上：2つの意見をもとに再度、修正させていただく。次に、7番に関しては1点修正した。目標値または成果指標に黒字で「環境の整備」と記載しているが、環境の整備というのは事業名や事業概要に当てはまるのではないか。環境の整備を行ったうえで、「場の提供と機会の創出」は目標値または成果指標ではないか。という意見をいただき青字の記載のとおり修正したがいかがか。

全員：修正案のとおりで良い。

井上：8番に関しては1点修正した。事業概要の「親子参加型」という表現は、イベントの参加方法なので、消した方が良いという意見をいただき削除とした。

全員：修正案のとおりで良い。

井上：飛んで3ページの22番について説明する。コーディネーターの養成という内容だが、事務局から削除ということで案を出していたが、長期間で取り組むべきことであり、アクションプランに位置付けたほうが良いというご意見をいただいた。事務局で、再度審議した結果、市の職員がコーディネーターを養成するのは難しいが、コーディネーターの養成ではなく、「コーディネート機能の充実」とし、記載のとおり案を出させていただきたい。文化協会やユリックス等から相談があった場合に市は、情報を提供しサポートしていきたいと考えている。

大澤：コーディネート機能の充実は誰がするのか。市としては、コーディネーターの養成はできないが、コーディネート機能の充実はできるということか。

高尾：当初、コーディネーターの養成と策定した際には、コンシェルジュ的な役割で、養成をしたり、相談を受けた際には関係者へ繋いだりするなど、プラットフォームとしてコーディネーターを養成することだった。それを職業やボランティアとして養成することに対し、道筋が見えていない。現在、市やユリックス、文化協会に相談があった場合には、関係者を紹介したり、サポートしたりしているので、今後も機能としてのコーディネート機能を充実、強化させたいと考えている。

大澤：相談の受付窓口の専門性はとても重要であり、ジャンルや活動形態、目的を踏まえつつ、適任な相談役を紹介することが大切。コンシェルジュの人材をどのような形で委任するのか、外部の機関とどのように連携していくのか構築させることが必要。

牟田：文化協会の各代表が集まって対話できる場があったら、市の意向が各協会に伝わると思う。

大澤：コーディネート機能の解像度をもっとクリアにしないといけない。市にどんな相談が多くて、どのように返答しているか教えてほしい。

高尾：相談件数は、ユリックスが多く、市に具体的な相談はほとんど来ない。自身がこのような活動

をしていて、補助金があるかという問い合わせがあるくらい。

大澤：今起きている相談に対してデータベース化すること、情報を共有してより良い対応をしていくためにはどうすれば良いか検討できるチームがあればいいと思う。コーディネーター養成で不明な点があれば、私に相談してもらえればアイデアを出すことはできる。修正案はこのままで良いと思うが、どのように実行するかクリアにできた方がよい。数値化するならば、相談の件数と視察の件数を1つの軸にし、データベース化する方法もある。待つだけではなく、こちらから面白い活動をしているアーティストを探し、現地に視察に行き、話を聞く、そして繋いでいくことが大切だと思う。

原： 大澤先生のような立場の方にアドバイザーとして入っていただき、コーディネート機能の充実を図っていくことは、アクションプランに記載するかしないかも含め、事務局で検討いただきたい。

井上：では、事業名は「コーディネート機能の充実」とし、皆さんからいただいた意見をもとに目標値または成果指標に市のアクションを追記できないか検討する。以上が前回の審議会から変更した項目である。次に、2ページ9と23番の赤字の統合案について協議していただく。2ページ9番は「伝統文化のアウトリーチ」について、4ページ23番は「伝統文化の継承に向けた体制の強化」であり、どちらも「伝統文化の継承」のことを謳っている。そのため、2ページの統合案は「伝統文化の継承」として1つにまとめた。9番の「アウトリーチ」を行うことは1つの手段であるため、統合案の目標値または成果指標②に記載した。

大澤：関係者に福岡県文化協会と記載があるが、福岡県文化協会がどのような関わりを持つのか。

牟田：宗像市文化協会の代表は、県分連の会議や研修に参加している。福岡県文化協会と強い関わりはないが、困ったときにコーディネートをしてもらえる。

大澤：文化芸術の予算が切迫していく中で、文化協会の存在意義を説明できるようにならないといけないと思う。活発に活動している他自治体の文化協会があれば視察に行くと良いと思う。

福岡：事業概要の赤字の文言に「伝統文化」という文言が複数入っていて分かりにくいので、簡潔にまとめた方がよい。

井上：上記の件は、事務局側で修正する。次に10番について説明する。事業名を「上質な文化芸術のアウトリーチ」としていたが、どのジャンルが上質な文化芸術かは個人差によるもので、上質という表現はあいまいなのでわかりにくい。また、10番の目標値または成果指標に書いてあるアウトリーチを行うという内容は、7番の事業名「日常的に文化芸術に接する環境の整備」の目標値または成果指標に付け加えることができないか。アウトリーチに関しては、市からユリックスに対して業務委託をしている。中々会場に来ることができない人達に対して行っているものであり、今後も続けていきたいと考えている。10番の項目は削除とし、アウトリーチの内容は7番の目標値または成果指標に記載したい。

全員：修正案のとおりでよい。

井上：11・12番の赤字統合案について説明する。黒字の11番は、福岡教育大生をアウトリーチ事

業に派遣し、文化芸術のつくり手としての経験する機会を創出するとしていた。12番の黒字は中高大学と連携し、つくり手としての経験、事業の運営を体験する機会の創出としていた。どちらも「中高大学生がつくり手として経験する機会を創出する」ことが書いてあるため、統合案のとおり1つに統合できないかと考えている。

全員：修正案のとおりで良い。

井上：19番 事業名「国民娯楽の体験及び発表の機会の充実」に関して説明する。宗像市では年度、将棋の王位戦が開催される予定なので、国民娯楽に「将棋」と追記している。

全員：修正案のとおりで良い。

井上：21番 事業名「デジタル技術を活用した事業」の削除案について説明する。オンライン配信というのはコロナ禍に定めた目標であり、今後実施する予定がない。市としては、生の体験を重視したいと考え削除としている。

全員：削除で良い。

井上：24番の修正案について説明する。24番の黒字は、中村研一・琢二に限定して、作品の活用事業と記載している。他にも宗像にゆかりがあり、活躍されている方がいるため幅広く対応できるように統合案の事業名を「地元アーティスト活動促進・活用事業」と変更した。「中村研一・琢二」作品の活用については、赤字の修正案の目標値または成果指標に記載している。

全員：修正案のとおりで良い。

井上：25番の事業名「文化芸術の情報の整備と活用」について説明する。25番は、文化芸術に関わる人のデータベースを作成することとしているが、現状、宗像に文化芸術に関わる人がたくさんいると想定していない。例えば、年1回広報紙でコーディネーターとして紹介してほしい人を募集し、紹介してほしい人の情報を市のホームページに公開するなどして対応していきたい。

原：市には文化芸術に関わる人のデータはあるのか。

高尾：これまで関わった人の情報は持っているが、誰でもアクセスできるようなデータベースではない。

大澤：そのデータの項目はなにか。

高尾：ジャンル、氏名、住所、連絡先等を記録している。

大澤：それを精緻化していくことは可能か。

高尾：できると思うが、このアクションプランで謳うほどの情報量はない。25番のデータベースの作成、27番の文化芸術サロン、22番のコーディネート機能の充実は密接に関係する内容であり、1つに統合できないかと考えている。その点についてご意見をいただきたい。

大澤：そのとおり、22番・25番・27番は一体的に整理できると思う。データベースは作ることより使うことが目的なので提供できる情報量を増やし更新していくことが必要。

高尾：22番の項目に25番・27番の内容を付け加えて、コーディネート機能の充実を謳うことができれば方向性が見えてくると思う。

秦： 学校でなにか実施したい場合もそのデータを見てアーティストと繋がるのができたらいいなと思う。

吉田：自らデータベースに掲載してほしいと名乗り出ても、スキルに一致しない場合もある。

原： そのために、市のホームページにデータを公開するときは「宗像にゆかりがあるアーティスト」として記載するなど掲載の工夫が必要である。

井上：では、22番の項目に25番・27番の内容を付け加えることができないか検討する。次に、27番の事業名「文化芸術サロン」については削除という案を出させていただく。理由は、令和4年度の1年間、宗像ユリックスの市民ギャラリーで10回サロンを実施したが誰も来なかった。広報紙にもサロンを設置することを掲載し、PRしたが誰も来なかったため、宗像ではサロンという場所として設ける必要はないと考えている。

大澤：サロンではないが、文化芸術活動事業補助金の報告会はあった方が良くと思う。

井上：報告会の実施については追記する。次に、32番の修正案について説明する。32番の黒字記載していた次期振興ビジョンというのはこれまであった総合計画と行動プラン(アクションプラン)が1つにまとめられている。来年度からは総合計画と現在審議しているアクションプランの2つで目標を定めていく。総合計画は5年に1回しか大きな変更ができないが、アクションプランは現状に応じて変更が可能。来年度からは年1回審議会でアクションプランの見直しをしていきたいと考え、記載のとおり変更したいと考えている。

全員：修正案のとおりで良い。

井上：33番は新規追加したい内容である。宗像市は、eスポーツの活用体制を充実させるため福岡eスポーツ協会に加入している。去年は、宗像ユリックスのにっこり文化講座やむなかたこども大学、宗像祭でeスポーツのイベントを積極的に行ってきた。このような現状を踏まえ、新規案として事業名を「メディア芸術の推進」とし、eスポーツや漫画・アニメ・宗像になじみのあるキャラクターの推進・活用を考えているがいかがか。

吉田：宗像になじみのあるキャラクターとは何か。

萩野：例えば、ゆるキャラのテンちゃんである。現在、文化芸術の枠も広がってきており、宗像市の事業でもテンちゃんを積極的に活用している。

大澤：経緯や背景を教えてほしい。自身の意見としては、eスポーツを文化芸術として捉えているのを見たことがない。普通に考えたらスポーツではないか。eスポーツを宗像市の文化振興とするならば覚悟が必要である。

萩野：現状、文化観光の一手段としてeスポーツの活用がある。

大塚：eスポーツは、身体活動を伴わないという理由からスポーツ分野ではなく、文化芸術のアクションプランで記載しようと整理している。eスポーツの窓口は文化スポーツ課になっているため、メディア芸術のコンテンツとして追加をした。

大澤：文化芸術の推進によるまちづくりを実施する上で、eスポーツについて説明ができるのか。

萩野：eスポーツは、文化芸術よりも福祉政策や世代間交流、観光の方が結びつきが強い。文化芸術としての回答は難しく、どう取り扱うか検討している。

大塚：この件は、スポーツ分野との絡みもあるため、一度事務局で検討させていただく。

高尾：次回の審議会では、修正箇所の確認、効果の確認、具体的な数値目標の設定をお願いしたい。